

「柏崎の水」

東条（深沢） 金倉鉱泉

北条と旧小国町の境にある^{かなぐらさん}金倉山は山頂付近にふたつの神社があり、それぞれ「広田の金倉さん」「東条の金倉さん」などと呼ばれる。東条の金倉さんを写した古い絵葉書に「諸病平癒祈願ノ為参詣者頗ル多ク…」と記されているとおり、病氣平癒に靈験あらたかといわれ、他郷からも多くの参詣者があった。そのほか東条では日照りが続くと金倉さんにこもって雨乞いをしたとも伝わる。また、金倉山には天狗が住んでいたという伝説があり天狗の面や下駄が奉納されている。毎年5月8日のお祭りの日にはお神楽が奉納され、お店も出るなど賑やかであったという。

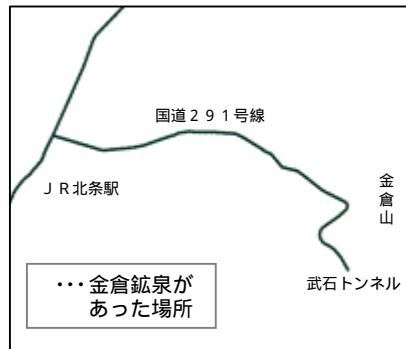
金倉鉱泉浴場は深沢から金倉山頂に向かう登山道途中にあった。そこは北条駅から小国郷に通じる当時の峠道沿いであり、現在の国道291号線武石トンネル手前にあたる。この地は「湯の入り沢」などとも呼ばれ、「新潟県温泉誌」では、遙か南方に八石山を望む眺めのよい場所であり魚釣りや茸狩りの好適地でもある、と紹介されている。鉱泉は無色透明で塩味がするが匂いは無く、浴槽は男女それぞれ2、3人が入れる程度の大きさがあったという。ここには金倉神社の参詣者が多く



東条の金倉神社の祭礼日の様子
(小竹コレクション絵葉書より)

右：金倉鉱泉浴場の広告
(大正3年の柏崎日報より)

下：金倉鉱泉周辺の地図



立ち寄ったほか、深沢や^{ほどたいら}程平の人々が田植えの終わった頃に泊まりに来て疲れを癒したという。

だが浴場を経営されていた方の二人の息子さんが戦争に召集され帰らぬ人となるなど不幸もあり、戦後は営業を行っていなかった。鉱泉浴場の建物は解体され、跡地も国道291号線の改修により道路の下に埋もれてしまい、往時を偲ばせるものは全く残っていない。現在、鉱泉が湧き出ているかどうかはわからない。

昭和39年、程平集落は集団移転を行い廃村となった。深沢も徐々に人々が転出し、生活様式の変化もあって金倉神社は以前の賑いを失った。しかし、現在も神社は地元の人々により整備され、お祭りも5月5日に変更されたものの毎年執り行われるなど、その伝統を後世に継承している。

参考にした本

- 「新潟県温泉誌」新潟県温泉協会 編 (290 N オン)
- 「柏崎市伝説集」柏崎市教育委員会 編 (388 K キヨ)
- 「温古之菜」温古之菜刊行会 編 (050 オン)